

ゆうばえ

発行日:2024年7月1日
(2024年7月-8月号)
発行人:小川マキ
〒950-2172
新潟市西区内野上新町11810番地3
TEL 代表 (025) 264-5000
FAX (025) 261-4430
在宅ケアセンターゆうばえ内

＊
ときの話題

2024 知る楽しみは生きる活方

夕映えゼミナールへの誘い



夕映えゼミナール
事務局
高橋 実

昨年は新川と広通川、赤塚と佐潟をテーマに、郷土の歴史や地理を学びました。講師は加藤功さん（越後新川町おこしの会・世話人）と太田和弘さん（赤塚・佐潟歴史ガイド）をお迎えしました。

今年度は少しバージョンアップして、越後平野全体に視野を広げます。そしてマイクロバスでの移動を主にして、現地を歩いて自分の目で確かめるフィールドワークを中心に開催する「大人の遠足風ゼミナール」としました。案内役は、加藤功さんに引き続きお願いしました。

開講

フィールドワーク 7月21日（日）

越後平野の干拓史

今年度の夕映えゼミナールは全4回の予定です。第1回目は越後平野の干拓史、（北蒲原と西蒲原）がテーマです。西蒲原の悪水除去の大仕事には、実は「呼び水」となる大干拓事業が北蒲原にありました。それが「紫雲寺潟」

（塩津潟）の干拓です。

17世紀の江戸時代、現在の新発田市紫雲寺地域、胎内市塩津地域には、約2000ヘクタール（東京ドーム427個分）にも及ぶ広大な湿地が広がっていました。これが、塩津潟（紫雲寺潟）です。しかし日本海側の砂丘地で堰き止められ、加治川、信濃川を経て新潟町まで流れていました。当時の越後平野にあって日本海に流れ出ていた川は、荒川と信濃川だけであったと、昨年の夕映えのゼミナールで学びました。

先人たちは幾たびの挑戦で砂丘を掘割り、長者堀（落掘川）による排水が成功し、新田開発が爆発的に広がりました。この大事業が、西蒲原の悪水排水に大きな影響を及ぼしました。

江戸時代、元禄から享保にかけての世紀の大事業をご一緒に覗いてみませんか！

第2回ゼミ

フィールドワーク 9月1日（日）

横田切れと大河津分水

新川は文政3年（1820年）に現内野小学校脇の金蔵坂を堀割って、西蒲原の悪水を五十嵐浜に排出することに成功しました。西蒲原干拓への巨大な一歩となりました。

しかし、信濃川の氾濫・洪水は止むことはありませんでした。明治29年（1896年）7月には、横田村で破壊し未曾有の大水害が起きました。この

大水害が、信濃川中流域の治水の機運を高めました。当時の技術水準では分水開削は困難を極めました。大河津分水が完成したのは新川開削から100年後の大正11年（1922年）のことでした。大河津分水の過去・現在を見るゼミご期待ください。

第3回ゼミ

フィールドワーク 10月20日（日）

新川河口排水機場と石碑群

地元でありながら、初めてという方もいらっしゃると思います。かつて東洋一の排水能力を誇ったポンプを実際に見てみましょう。また数々の石碑も興味深いものがあります。新広通川の沿革を綴った石碑を読んでみましょう。

第4回ゼミ

座学 11月17日（日）

西川・広通川・新川

農地のプロが語る用排水体系

先人たちの苦闘の上に、西蒲・新潟の美田が生まれました。西蒲土地改良区・農地のプロから、用水源である西川、排水河川である新川と広通川を体系立てて説明していただきます。



紫雲寺潟干拓後にできた42の村
新潟県ホームページより

ト部厚志 教授が語る
「新潟市域で予測される地震災害」

5月19日 西コミュニティセンター



事務局長
神立 秀明

夕映えの会総会に先立ち、設立30周年記念講演を兼ねて新潟大学

災害・復興科学研究科所長ト部厚志教授より『新潟市域で予測される地震災害』の講演会を行いました。現在、地震（能登半島地震、液状化、長岡平野西縁断層）の話は、私たちの一番の関心事で興味ある重大な問題です。また、私たちの身近に、明日にでも発生しうる地震の話です。そのようなお話を聞くために、西内野、内野地区中心に100名が参加しました。

1月1日に発生した能登半島地震の地震による倒壊被害、合わせて、津波による被害の実態。そして、西区等における「液状化の被害」について詳しく現地調査結果・科学的分析結果に基づき報告されました。

家屋の倒壊については、重要な問題は住宅の耐震化工事。能登の珠洲市鵜飼の事例では、旧耐震の建物の9割で倒壊・全壊となっています。

新潟市の液状化被害については、土地の成り立ちや地形に大き

く依存しています。液状化被害のタイプとして①砂丘面末端部②信濃川旧流路③低地部です。今後について重要な問題は、「液状化被害は繰り返す」こと（新潟地震と今回の地震）。安全な地盤の構築が復旧復興のカギとなっています。国の事業による街区単位の液状化防止事業を早急に進める必要性があり、新潟市のリーダシップが問われると強く訴えました。

今後の地震対策では、長岡平野西縁断層（小千谷市から佐潟東側を通って新中浜・四ツ郷屋・内野上新町を経由して県水産試験場の沖合につながる断層）とF38断層（佐渡海峡付近）の断層が同時に動いたときは、平野側が沈降し、大きな津波が早く到達すること。津波については、大きさよりも早く来ることの対策（早く高い場所に避難する）が大切とお話されました。

人的被害や家屋の倒壊も多数発生し、ライフラインの全てがしばらくマヒする（陸の孤島になる可能性）。今後起きる、最も大きな地震と予測されているとお話でした。

命と暮らしを守るためにも、地震に対する個人の備え、避難所の充実が大切と訴えられました。地震はいつ起こるかわかりません。今かもしれません。

「備えあれば憂いなし」、参加者一同心にドーンと訴えられた講演でした。

参加者の感想から

50名を超える参加者の皆様から感想が寄せられました。一部を紹介します。

大変分かりやすい説明で、知らないことが多く、目からうろこでした。ありがとうございました。

液状化を防ぐためにも、地盤の改良を公費でやらせるよう住民が運動しなければなりません。市長を動かさないと。

わかりやすい話で普段から気をつけようと気持ちが強くなった。

防災は未来志向で、地区でまともりたい。

大変参考になりました。まったく地震にそなえてなかったので反省しています。

ト部教授の少し辛口の発言の内容や行政に対する考え方に共感しました。自分自身もっと防災や災害に対して考えなければならぬと思います。

大変参考になりました。又、こういう機会を是非作ってほしいと思います。

新川から入る津波について、西川の立体交差がバリケードとなつて両広通に入る危険があると思います。長岡平野西縁断層に限定したお話を聞きたいと思っています。

今回のような機会を得られ、大変良かったです。地域に絞った講演で大変参考になりました。再度このような講演会を開いてほしいです。

直接先生からお話を聞くことができ良かったです。高齢の方が多かったと思いますが新しい情報に更新したと思います。その上で、小中高生にもこのような話を聴く機会があると良いと思いました。

台湾のように、素早くゆきとどいた対応を、地域の一員としても構築できたらと思います。



新玉ねぎの味噌和え

内野西 玉木ふみ子

材料

- ① 玉ねぎ2個
- ② 味噌適量

作り方

- ・玉ねぎをスライスする。
- ・スライスした玉ねぎに味噌を入れて軽く和える。
(ふたつきの容器がベスト)
1日そのまま置く。
- ・2日目もう少し混ぜ合わせ、味見をして味が足りなければ味噌を足す。(あまりしょっぱすぎない方が美味)
- ・3日目くらいに玉ねぎの辛みが飛び、みそ味がついて玉ねぎの甘みが出て、マイルドな味になります。

※以前、みんなが集まるお楽しみ会に持っていったら、甘くて美味しいと言われました。「簡単すぎて、これ料理?」と思っていますが、わが家の簡単料理として紹介します。みなさんもぜひ新玉の美味しい時期に作って見て下さい。味噌は発酵食品ですので、体にも優しいです。



地域の声・話題コーナー

お元気会の予定

7月

とき 7月18日(木) 9:30~11:30
ところ 西コミセン
内容 脳トレ・筋トレ

8月

とき 8月29日(木) 9:30~11:30
ところ 西コミセン
内容 ヨガ体操

♪ 美しい花々に癒されます ♪

新川元橋のたもとに位置する、五十嵐3の町東の澤田さん宅の庭園です。四季を通して様々な花が咲き、道行く人々の目を楽しませてくれます。色とりどりのバラやそれを取り囲む可憐な花々も愛らしく、イングリッシュガーデンの趣があります。お聞きしたところによると、バラは鉢で育ててその周りに他の花を植えているとのこと。それが多様な花々とバラを共生させる工夫のようです。
(本間真由美)



団体さん いっしょ~い

真剣に防災避難訓練実施
「自分の命は自分で
守る」気概で!

6月8日、午前9時30分~12時まで恒例の防災避難訓練を実施しました。地震で火災が発生したことを想定、大学南が丘地区内の避難訓練を実施しました。訓練項目は「濃煙体験」「情報伝達網の検証」「AED体験」「応急手当体験」「初期消火訓練体験」「一般防災関連情報説明(区役所職員)」「架空の災害状況確認取り」「災害に関するミーティング」などです。

今回の訓練は、雨で順延になった訓練でしたが、85名もの皆さんから参加していただきました。やはり元日の地震体験やあちこちで頻繁に起こる災害などで、皆さんの防災意識が高まっていると思います。訓練終了後、懇親会を開催し住民同士の親睦をより一層深めたところ
です。

「運が良ければ近所が助けてくれるかもしれないが、自分の命は自分で守るしかない」、私の持論です。人情味がないといわれるかもしれませんが、災害現場の実相かと思えます。でも万が一に備えて皆で自分の命を守り合う訓練は出来ず。訓練を終えると、ホッとします。



大学南が丘自治会長 青柳由行

高齢者に学ぶ伝統食づくり

第十七回 中華ちまき



デイサービス
センターゆうばえ
竹内 寛子

ちまきは日本でも古くから作られていますが、元々中国から伝わったという説があります。

笹に巻かれた白いごはんきな粉をつけて食べるというイメージがあるかと思いますが、今回は中華味で作ってみました。本来は生米と具材を笹に入れ蒸し上げるのがちまきですが、今回は中華味なので作り方を工夫しました。

材料は、うるち米、もち米、筍、人参、干し椎茸、チャーシュー、鶏がらスープの素、オイスターソース、醤油、砂糖、塩、ごま油、そして笹とすげです。

まずは笹を取りに行こうと思っただのですが、今年の笹は小さく不作とか。改善の策として、昨年冷凍保存しておいた笹を使用しました。

うるち米ともち米を1:1の割合で混ぜて研ぎ、水につけておきます。具材を細かく切り、ごま油で炒め、調味料で味をつけ、米と一緒に炊きます。



笹とすげを熱湯消毒して乾かし、炊きあがったご飯を笹で包みすげで巻いて出来上がりです。

この巻く作業がとて難しく上手なご利用者様に教えてもらったのですが、まず巻き方を覚えるのにも一苦労、何度やっても上手くいきません。やっと一つ出来たと思ったら、その間にご利用者は3つも作られていました。本当にすごいです。普段生活していて、ちまきを作るという事はなかなか出来ない事なので、とても貴重な体験をさせて頂きました。ありがとうございました。

今度は、生米と具材を笹に入れて蒸し上げる、本格的なちまき作りにもチャレンジしたいです。

Information

ゆうばえ新聞 通信員大募集

お住いの地域のとおき情報をお知らせください。

季節は初夏から盛夏へと移っています。とはいっても温暖化で高温の日は盛夏だけに限らなくなっているのが昨今のよう。

読者のみなさんの身の回りのこと、ペットの可愛い様子や季節の花々など写真一枚を添えてお送りください。

編集責任者 高橋 実

電話 025-264-5000 ゆうえい会

携帯 090-2661-8249

メール takahashi_m@niigata-min.or.jp

【配食事業部】 070-4453-5228 (小島)

お弁当のお問い合わせほかお気軽にお声かけください。

【生活支援】 070-4314-3980 (神立)

お困りのことがあったら何なりとお電話ください。



大きな地震から半年、四季咲きのラベンダーが清楚な花をつけてくれました。

(高橋小夜子)

編集後記

昨年の夕映えゼミナール、後半は赤塚と佐潟がテーマでした。赤塚が在郷町として近在にはない歴史を持って発展したことを学びました。その際、佐潟や乳の潟で採れるコイ・フナ・ウナギなど魚介類とハス・ヒシなど豊かな産物が土台にあったと太田和宏さんから教えていただきました。なんでも、佐潟産のウナギは大きくて大きく、新潟の老舗料理屋に直送されていたと聞きました。また漁師も景気が良くて「ウナギ御殿」が建ったそう。往時の佐潟と人々の賑わいを見てみたいものです。さて、そんな佐潟から今、悲鳴が上がっています。夏場アオコが発生し、水質悪化しているのです。地元赤塚では、佐潟の再生に向けて官民あげた取り組みが始まりました。編集者が過日佐潟を訪れた際、排水門の辺りにたくさんの方の作業員の姿がありました。そして何と、佐潟の水が抜かれているではありませんか。佐潟の水質を元に戻すために水門付近のヘドロを除去したと、後日知りました。私たちもできることはないか、思案中です。(M記)